株式会社東北新社メディアサービス

2024年度 第1回番組審議会議事録

1. 開催年月日　　：2024年 9月 19日（木）

2. 開催形式　　：書面開催

3. 委員の参加　　：参加委員数 6名 ／ 委員総数 7名
　書面提出者　　：瀬戸純一委員長、関沢英彦委員、天城靱彦委員、
　　酒井順子委員、服部洋之委員、森川雅博委員
　書面未提出者　　：中浩正委員

4. 審議対象チャンネル：Super! drama TV HD

5. 議題　　：番組審議
　＜審議対象番組＞
　・「探偵ミス・フィッシャー ～華麗なる事件簿～ シーズン1」【字幕版】
　・「ヤバいホテルをたて直せ！～ホテル・インスペクター～ シーズン17」【字幕版】

6. 審議内容
　＜「探偵ミス・フィッシャー ～華麗なる事件簿～ シーズン1」【字幕版】について＞
・第一次世界大戦が終わったばかり、1920 年代のメルボルンの雰囲気、当時のオーストラリアの上流層、ロシア革命の影響、など、いろいろな要素が物語を面白くしている。多層的に楽しめる作品。
・探偵役がファッショナブルな女性ということで、ビジュアル面から楽しむことができた。ファッションから類推はされたが、描かれたのがどの時代なのかもう少しはっきり知りたかった。
・フィッシャーが面白いキャラクター設定である。そして勿論、事件を紐解いていく洞察力、頭の良さが最大の魅力だ。通しで見たくなる伏線もしっかり押さえた。
・なかなかに個性的で、秀逸な推理ドラマ。何より主人公が良い。見る者を引き込む魅力があり、見ていて楽しい。脇を固める人物像の描き方も丁寧。謎解き物としても、十分に楽しめる。
・1920 年代の港の再現などは今の水準からすると多少の稚拙感が否めない。ストーリー展開では予想外の結末に驚かされたが、もう少し巧みな伏線が必要ではなかったかと思う。
・1920-30 年代ミッドセンチュリーの雰囲気を作り上げている考証やデザインのセンスが光る作品であると感じた。フィッシャーの癖のあるキャラクター設定が、こうした独特の世界観を作り上げているのではないかと感ずるほど無国籍感がある。

　＜総括＞
「探偵ミス・フィッシャー～華麗なる事件簿～シーズン 1」は、1920 年代のメルボルンを舞台とした 2012 年オーストラリア制作のミステリードラマ。「探偵ミス・フィッシャー」は、探偵のキャラクターが魅力的。各委員は「奔放で思い切りの良さを併せ持つ」「怖いもの知らずの行動力、鋭い洞察力に加え、ユーモアとウィットに富む」「コロンボやポワロ等々の刑事ドラマ、スパイ映画のエッセンスを嫌味なく模倣し、詰め込んだ結果、独特の世界観を作り上げている」「弱い立場の女性に寄り添う姿も描かれている」などと評した。推理ドラマとしてのストーリー展開も巧み。第一次世界大戦が終わったば

かり、ロシア革命の影響も漂うメルボルンの雰囲気を背景に、様々なキャラクターを持つ登場人物を丁寧に描き、意外性のある犯人にたどりつく筋立ては、多層的で厚みがあり、楽しめたとの意見が複数寄せられた。本作品は、シリーズの第一話であるが、次回につながる伏線、謎が十分に散りばめられており、何人かの委員が「続けて見たいと思わせる」とコメント。「初回としては上々」とする委員もいた。

＜「ヤバいホテルをたて直せ！～ホテル・インスペクター～　シーズン 17」【字幕版】について＞

・ビジネスのあり方を教えてくれる番組。ダメなホテルのどこが問題なのかが示されて、経営者は必死に改革に取り組む。その姿が、視聴者の心をつかむだろう。
・売り上げ不振の飲食店を立て直すといった番組は日本にもあったが、そのホテルバージョンは、さらに見直す部分が多岐にわたり、興味深かった。
・イギリス中の困窮ホテルを生まれ変わらせる「ホテル検査官」アレックス・ポリッツィの活躍を追ったドキュメンタリー。単純にホテルが再生していく様を見ていくのも、ある意味スリリングで面白いが、企業経営者のテキストとしても十分通じる有意義な番組である。
・経験豊かなカリスマ的インスペクターが、「やばいホテル」を建て直し、蘇るプロセスを描く本物語は、なかなかに興味深く、面白い。依頼主を容赦なく叱責する一方で、温かい配慮も見せ、ホテルの前途に希望を見出す構成になっていることも、長年視聴者に愛され続けている所以であろう。
・娯楽ドキュメンタリーとして素直に楽しむことができた。ホテルを舞台に経営を立て直すプロセスを見せるというのは、シチュエーションの設定としては魅力的で様々な可能性を秘めていると思う。
・人の成長、マネジメント改革の物語である。多くのビフォーアフター番組は「目に見える変化」を映像化するが、当該番組は外側の変化もさることながら、内面（人の心の持ち方）を変えていく面白さがあり、番組の魅力に昇華できていると感じる。

＜総括＞

「ヤバいホテルをたて直せ!～ホテル・インスペクター～シーズン 17」は、イギリス TV 局で長年放映されている人気の娯楽ドキュメンタリー。「スーパー！ドラマ TV」の審議対象としては、いささか異色の作品となった。各委員からは、その多様性、目新しさも含め、「面白い」「楽しめる」「有意義」等々、高く評価する意見が出された。本チャンネルには、今後とも米国以外の新しいジャンルへの更なる挑戦を続けるよう期待したい。「ヤバいホテルをたて直せ!」は、崖っ淵にある「ヤバい」ホテルを蘇らせるインスペクター、アレックス・ポリッツィの活躍を追ったドキュメンタリー。今回まな板にのったのは、スパ、タイ料理が売りのタイ式ホテル。タイにまったく関心のない脱サラ夫婦が、人生最後の賭けとして買い取ったものである。しかし、このホテル、タイ風をアピールする装飾品や、看板、注意書きが多すぎて落ち着きがなく、何より部屋全体が不潔で不衛生。オーナー夫婦、従業員の時間配分も滅茶苦茶で、ホテルの態をなさない惨状だった。アレックスは、こうした問題点を挙げて厳しく叱責し、改善方策を示すのが、前半の見所。その進言にショックを受けた夫婦が指摘を真摯に受け止め、懸命に取り組む姿が、後半の見所となる。アレックスは後半、変わっていく夫婦を褒め、大口の長期滞在客獲得につながる旅行コンサルタントを呼び寄せるなどの配慮もみせており、前途に希望を持たせる構成。全体を通して説得力のある筋立てになっており、委員からは「ダメな経営者が立ち直っていく姿が楽しめる」といった声のほか、「経営者のテキストとしても通じる有意義な番組」「外側の変化もさることながら、内面(人の心の持ち方)を変えていく面白さがある」等の指摘も聞かれ、概ね好評であった。

＜事業者回答＞

今後の番組編成の参考にさせていただく。

以上

株式会社東北新社メディアサービス

2024年度 第2回番組審議会議事録

1. 開催年月日　　：　2024 年　9 月 27 日（金）　15:30～17:00

2. 開催場所　　：株式会社東北新社 会議室（東京都港区赤坂 4-8-10）

3. 委員の出席　　：委員総数 7 名 ／ 出席委員数 5 名
出席委員の氏名　：小池保 委員長、渡辺祥子 委員、渡辺純一 委員、藤森益弘 委員、明智恵子 委員
欠席委員の氏名　：谷口恭子 委員、横山宗嘉 委員

放送事業者側出席者氏名 ：
＜株式会社東北新社メディアサービス＞
漆原 弘子 代表取締役社長
＜AXN 株式会社 ザ･シネマ事業部＞
榎本 豊 ゼネラルマネージャー、（事務局）小林 淳

4. 審議対象チャンネル：　ザ･シネマ HD

5. 議題　　：　放送企画審議
＜審議対象放送企画＞
(1) 放送企画:コロンビア･ピクチャーズ 100 周年連動企画
(2) 放送企画:AmazonStudio 作品 集中編成

6. 審議内容
(1)放送企画: 「コロンビア･ピクチャーズ 100 周年連動企画」について

・こういうことをやったらこういう反応があるんだな、という新たな発見はあったか？
→上映会はロイヤリティの高いイベントになったと考えている。それに対するお客様の高い反応は収穫だった。
また、SPE 側でもこういったイベントや取り組みが一定の感触を得られるという気づきになったという反応であった。
・SPE 試写室は広くて綺麗なので、利用させてもらうのはいいと思う。
・これはとてもいいことであるが、「バッドボーイズ」「ゴーストバスターズ」といった作品もいいが、アカデミー作品賞を取った名作と言われる作品について今後放送する予定は無いのか。
→今回の審議対象期間の前にこの企画が始まっており、そこで「或る日の出来事」「イージー・ライダー」「タクシー・ドライバー」などを取り上げた。
・SPE が一緒にやりましょうという中で、協力体制はどうだったのか。作品のセレクトについてはザ・シネマから発注したものか。
→我々のほうでもこの企画を実施するにあたって、コロンビア・ピクチャーズとはどういうスタジオかということを考えた時に、時代時代で非常に先進的な新しい視点で映画を作ってきたスタジオであると捉えており、その視点で「イージー・ライダー」「タクシー・ドライバー」「未知との遭遇」などを編成している。ただ世間に対してアウトプットするにあたり、新作の公開などと合わせていかないと編成

として出していきづらいということがある。
・SPE 側が宣伝したい作品もやる代わりに、なかなか放送で観られないかつての名作群もやるという形で交渉していけたのではないか。
→仰る通りで、その視点で今回我々として選択したのが、この作品群だったということである。
・ここまでで放送していない作品でも、アカデミー作品賞を受賞しているような作品は取り上げるべき。
・これだけスタジオ企画をやるのであれば、タイアップにしてくれると良いと思うがどうなのか？
→記念グッズ提供や、ロスアンゼルスのスタジオツアー2 名分などの提供は受けている。
・各社試写室での試写会は喜ばれるものだと思う。

(2)放送企画:「AmazonStudio 作品　集中編成」について

・こういうことをやったらこういう反応があるんだな、という新たな発見はあったか？
→BtoB では独自性、他局との差別化において評価を受けた。また BtoC では、SNS への展開により視聴者からの好反応も多かった。
これを応用して、昨今過去の映画の「４K レストア」「HD リマスター」が多く行われており、こういったものを放送することで、「テレビ初放送」「CS　ベーシック初放送」といった打ち出しができる。そういった施策は開始している。
・ザ・シネマでも「ザ・シネマ　メンバーズ」という配信サービスを開始している中で、競合相手にもなるのかと思うが、協力関係を築くというような何か将来を見越してのやり取りになるのか？
→大手配信サービスとは規模、コンセプトが違うので、協力関係などは生まれづらいかと考える
・キャパを拡げるという意味では是非今後も取り組みを。

＜事業者回答＞
・頂いたご意見を真摯に受け止め、今後の番組編成の参考にさせていただく。

以上

株式会社東北新社メディアサービス

2024年度 第3回番組審議会議事録

1. 開催年月日　　：　2024 年　10 月 11 日（金）

2. 開催場所　　：　株式会社東北新社　会議室（東京都港区赤坂 4-8-10）

3. 委員の出席　　：　委員総数　7 名　／　出席委員数　4 名
出席委員　　：芥川麻実子委員長、中町綾子委員、中嶋貞治委員、武内智雄委員
書面参加の委員　：岩本昭治委員、岩佐陽一委員、村本理恵子委員

放送事業者側出席者氏名　：
＜株式会社東北新社メディアサービス＞
倉元健児取締役
＜株式会社ファミリー劇場＞（ファミリー劇場　HD）
筋野茂樹代表取締役社長、渡邊潔巳 GM

4. 審議対象チャンネル：　ファミリー劇場　HD

5. 議題　　：　番組審議
＜審議対象番組＞
・「ドラマ 10　大奥」

6. 審議内容
＜「ドラマ 10　大奥」について＞
・男性向けの番組がやや多い傾向にあって、この番組は女性を含めて幅広い年代にリーチできた作品として編成の幅が広がって良かった。
・コンテンツの消費サイクルが短くなっている中で、もう一度視聴のチャンスを得られ、良い番組が共有されていく事は文化の貢献にもなっているのではないか。
・出演俳優の特集の以外にも、原作や脚本家という切り口で特集すると作り手のメッセージなどが見えてきて、ドラマファンに喜ばれるのではないか。
・昨今暗いニュースやショッキングなニュースが多いなかで、非日常的でその中にもいろいろな人間性が織り込まれていて良いドラマであった。
・原作の面白さが作品の強さに繋がっているのではないか。
・映像のクオリティが高く、良作であったので、編成のバランスによるが、このような作品の編成を続けていただきたい。
・コミック原作で、認知度も高く、広く視聴者に届ける事が出来たのではないか。

＜番組編成に関しての意見交換＞
・AI や動画共有サービスの時代になってきているが、映像作品を残す意味での放送というのは重要な

のではないか。
・広く受け入れられる作品もあり、専門チャンネルとして間口の狭い作品もあるという事のバラエティ感が今後も必要だと思う。
・まだまだ埋もれている作品もあると思うので、発掘して世に広めて欲しい。
・消費意欲が高く、チャンネル視聴層よりも少し若い世代にアプローチする事が今後継続していく上で、重要なのではないか。
・新しい感性や意見を受け入れ柔軟に対応し、このような良質な話題作をキュレーションする編成力にファミリー劇場の可能性を感じた。

＜事業者回答＞
・今後の番組編成の参考にさせていただく。

以上